
ghosta city ? (ゴーストシティ 2)

零夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ghosta city ? (ゴーストシティ2)

【Nコード】

N9864Y

【作者名】

零夜

【あらすじ】

クリスマスの事件以降。
戦争を終わらせるべく。
約束を交わした。悪霊達がいた。
その一人。響 蓮痔
彼の物語が始まる。

スタート

俺は、1響ひびき 蓮痔れんじ

あのクリスマスした後、俺は、自分の住んでいる町に帰っていた。まあ、さっそく学校な訳だけど．．

突然だが。この世にB A D E N Dがあるとするば、

俺が今感じているのが現実のB A D E N D。

どう言う事か？と問われれば。こう答える。

俺には、会いたくない奴がいる。

その会いたくない奴が、

「よう！！今日もきめっちゃって！！かつこいいね！！」

まさに今目の前で挨拶代わりにこんな事を言ってくる。

まさにそいつが会いたくない奴だ。

彼の名前は、1小林透こばやし とう

そうこいつは、面倒な奴だ。

と言うのは、こいつといると。

上から、とりのフンが落ちてきたり。

中一が仕掛けた。落とし穴に。

学園の俺が引つかかる。中学校とは、違う。かと言って。高校でもない。

学園。

そこに俺は通っている。

俺にみれんと言えば。

親が勝手に離婚し、再婚した。相手に、

俺は、反対だったため。

そいつに殺された事、

戻ったら絶対にあいつを殺す。

当時は、そう思っていたが今は、違う。

もうその新しい父は、死んでいるのだから。

俺は、即答する。

そして、がっかりする顔を見る。

口から、言葉がでる。

「即答かよ．．」

女子「ああ！！居た居た！！あんた？朝の小林？ちょっと来いよ？」

「助けてくれえ」

「やだ」

俺はああ言う奴には関わりたくない。

そして授業。

普通の学校と違って。

今日の授業と言うのがある。

終わる時間がほしい。夕方5時から6：30分。

今日は、プラネタリウムに行くそうだ。

体育館の悲鳴
(前書き)

俺は、響 蓮侍。
最近、校舎中で、変な噂が立っていた。

体育館の悲鳴。

「本当らしいぜ？あの噂」

「えええ？まじでえー？こわーい」

クラスから聴こえる。怖いと言っ噂話の声、

なんでも．．最近我が校舎では、

変な噂が立っていた。

夜中に、体育館から、悲鳴が聞こえると言っ事らしい。

「おーい！！イケメン！！クールー！！」

と、朝から噂の話をしてるのに、

まるで修学旅行やなんかで、怖い話をしているところに空気の読め

ない馬鹿ちゃんが

いきなり的是ずれな事を言うようだった。

「お前．．今の雰囲気知らないのか？」

「なんだ？なんだ？かわいい子か？」

やはりこの男は、女の子としか考えていないようだ。

こいつが俺の友達って事が悲しいよ．．

「違う．．噂だ。」

「ああ、最近流行の体育館の噂、だろ？」

「そうだ。俺さ．．その噂、今夜一人で探ろうと思って、クラスメ

イトの言葉から、

情報を集めてた。」

変わった奴だと俺は、思った。蓮痔は、いつも変わった奴だ。

わざわざ、こんなあぶねえ噂に手を染めようなんて；

俺は、ごめんだぜ。

「まあ．．がんばれよ」

「お前に応援されても．．嬉しくないな。」

「なっ！！ああ、そうかい！！話のわからない奴目！！じゃあなあ
！！」

「何言ってる？」

俺の方に手が置かれる。

「な、なんだよ。その手」

「お前も来るんだよ。」

「ああ、俺今日、木曜だろ？だからさ」

「今日、金曜」

「おれ、放課後先生に悪さして呼びださ」

「お前がそんな事する勇氣．．ないだろ？」

「うつ．．ああ！！わかったよ行けばいいんだろ！！行けば」

「じゃあ．．夜中二時に。校門で」

「了解」

そして時間。

「透遅いな．．」

「よ．．よお」

「やっと来たか。じゃあ、行くか」

「はやっ！！」

そして、怖がる透を無理やり連れて行く。

「そろそろ．．だな．．」

そのとき、ガタンつと音がした。

「うわああああああああ！！！！」

；；逃げ足早．．

「結局．．透は逃げたのか．．はあ」

その時。

「バンッ」

銃声．．．

これは、お化けじゃないな．．

俺は、体育館の中を注意を払いながら、進む。

「ははは！！その程度の動きだな？」

「ちっ．．私の天上の力でもかなわない．．」

「それは、そうだ！！私は、スピードの速い。風だから、」

風．．．

あんな使い方か？

また銃声。

「うつ．．えっ？」

「誰だ！！」

「風のまともな使い方を教えてやるよ．．」

「だれだ！！」

「俺？そうだな？悪霊．．」

「何っ．．」

「後ろだ。」

「何っ？グっ！！食らえ！！」

「敵の武器を確認．．武器アサルトライフル．．相手の弾数とスピードを計算．．」

完了。処理行動開始」

「ちっ．．計算能力も兼ね備えた風か．．」

「風だと．．」

「さて．．そろそろ飽きた。じゃあな。」

俺は、飛んできた弾を。風圧を聞かせ。スピードを強化し奴の心臓部に返した。

「ぶが．．がはっ」

「大丈夫か？」

「大丈夫です．．貴方は、誰？」

「俺は、響 蓮痔．．お前、名前は、？」

「私は、1氷李 菖蒲

「そつかよろしくな」

握手を求めたが

「貴方をまだ。正式に仲間とは、認識できていませんので．．」
とクールに返される。

俺の助け．．なんだったわけ？

と言う事で。異常なほどクールな少女と出会ってしまったのだ。

222

体育館の悲鳴。 (後書き)

夜な夜な聞こえる。体育館からの悲鳴、

それは、噂になっていた。それがなんなのか本当に噂、なのだろうか？

それとも．．ほかの何かか確かめるべく。蓮痔が動き出す。

戦争をとめるために立ち上がる。悪霊たち、物語は加速する。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9864y/>

ghosta city ? (ゴーストシティ 2)

2011年12月1日19時45分発行